

## 第3回甲斐市総合教育会議議事録

- 1 日 時 令和2年2月13日（木）午後4時
  - 2 場 所 甲斐市役所 新館2階 教育委員会会議室
  - 3 開 会 午後4時
  - 4 出席者 保坂武市長 三澤宏教育長  
中込正久職務代理者 長田明美委員  
小林啓子委員 金子初男委員
  - 5 傍聴人 なし
  - 6 事務局 小田切聡企画政策部長 樋口充教育部長  
丸山英資秘書政策課長 加藤文雄教育総務課長  
興石信学校教育課長 大木康総合政策係長  
名取藤吾教育総務係長 河野晴美教育総務係員
  - 7 市長あいさつ
  - 8 議題 (1) 小中連携・小中一貫教育の現状について  
(2) 文化・芸術・スポーツなどへの活動の支援について  
(3) その他
  - 9 その他
  - 10 閉 会 午後5時15分
- 開 会  
事務局 開会を宣する。

○市長あいさつ

市 長

皆様、こんにちは。

本日は、お忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。

教育委員の皆様には、平素より甲斐市の教育行政の推進に、ご尽力を  
いただいております。心から感謝申し上げます。

また、昨年12月に柳本博美 委員の後任として任命いたしました金子  
初男委員が、本会議に初めて出席していただいております。

金子委員におかれましては、長年にわたる教育経験を活かしていただき、  
今日の教育課題の解決に向けて、ご尽力をいただきますことを期待  
しております。

さて、今年度、2回に亘り協議していただいた第2次甲斐市創甲斐教育  
推進大綱につきましては、委員の皆様から貴重なご意見をいただいた  
中で、策定に向け、最終確認の段階となっております。

本日は、小中連携教育や文化・芸術・スポーツなどへの活動の支援に  
ついて、事務局から経過、現状なども踏まえ説明いたします。

限られた時間ではございますが、是非、活発なご論議をいただき、有意  
義な会議となりますよう、ご協力をお願い申し上げまして、私のあいさ  
つとさせていただきます。

よろしく願いいたします。

○議題

(1) 小中連携・小中一貫教育の現状について

事務局

(資料説明)

市 長

説明が終わりましたが、ご意見、ご質問ございますか。

委 員

小中連携について、一つは「中1ギャップ」といわれる中学1年生に  
なるときの問題、もう一つは少子化によって学校が成り立たなくなりつ  
つあるということがあります。小中一貫を考えていく上で、いずれは学  
区の編成を考える時期も、この先、遠からず来ると思います。このこと  
を考えると小中連携によく取り組んで、小中一貫の教育に橋渡しができ  
るような取組を今からしておく必要があると思います。

これについては、やはり教育目標の一元化を小中学校で一緒にする必要があります。創甲斐教育の施策が出ているので、それをもとにして、地区によって多少は違うと思いますが、教育目標に一貫性を持たせるということと、ある程度の学習内容の見直しをしていくことだと思います。小中が一体にはならないけれど、内容の重複ということは洗い出せるので、そういうことも必要かと思います。学習指導の系統性ということについては、山梨モデルのようなものがあります。玉幡中学校の公開授業では、それをさらに進めて振り返りまで学習モデルに入っていて、これは小学校の低学年からでも、学校から帰る前に、1日の学習を確認できるということで素晴らしいと思いました。そんな先進モデルもあるので、学習モデルは全市で、ある程度、徹底して統一していけば一貫教育もできると思います。

また、「甲斐っ子の宝」の取組の中で「日本一の下駄箱」ということが全市に広まっています。そういう生活の中のモデルを全市に広めていけば小中連携はある程度スムーズに行くし、小中一貫にも進んでいくかと思います。

ただ、「一貫」となりますと、ここに課題として出てきたように、小学校区が複数の中学校区にまたがるような場合は、いろいろと問題が出てきて、学区割を考えていかないとなりません。甲斐市では当分の間はそこまでは踏み込まないで「連携」で進めていけば、今までの成果を活かしてうまくいくような気がします。

市長  
委員

中込職務代理者は、当分の間は「連携」でということですね。

私も同じような考えです。特に幼保も含めて甲斐市の小中学校においては、創甲斐教育の理念である「甲斐市で育ち、甲斐市を育てる人づくり」へ向けての思いを共有しての教育が、また、学校や保護者、地域との連携の促進が基本であると思います。その上で各校の実態や課題を踏まえての取組と同時に、9年間の系統的、継続的な指導、小学校教育から中学校への円滑な接続を目指していくということは、本市の教育理念に向けて、また先ほどからお話に出っていますが「中1ギャップ」の現状の課題の解消に向けて必要な取組だと思います。既に小中連携はそれぞ

れの学校でも取り組んでいて、指定校というかたちでも各地区で順次、行っています。先日も双葉の小中学校の発表がありました。そこでも多くの成果が示されておりますので、時間確保とか教職員の負担などの課題を踏まえる中でさらに検討しながら、指定が終わったところも継続して目指していけるように、さらに新しい地区も、今回、指定されるということで、取組を継続していくということが大事だと思います。

ともすれば指定が終わると、緩んでしまうところがありますが、今後ともさらに小中一貫を目指していく上でも、「連携」で多くの成果が蓄積されたものを継続していくという各校の努力、それに対する教育委員会の指導、支援も必要かと思っております。

本市の場合、小中一貫ということになりますと、一つの小学校からいくつかの中学校に行くという問題がありますが、そこも念頭において本市で考えていらっしゃるような「連携」を継続して進めていくことがいいと思います。

市長  
委員

小林委員も、スタートは「連携」でということですね。

私も、今まで竜王、敷島、双葉とそれぞれの地区が小中連携ということで実践してきた流れを見てきましたが、どの年も共通するのがこの課題のところにある移動手段・移動時間の確保、先生方の負担が増加するということです。どこの地区の方も共通に課題としてあげていて、やはりここが一番のネックなのかと感じます。

違う視点からになり、一部の子どもたちに特定されてしまいますが、部活動の小中連携というのは一番取り組みやすいところで、移動手段を考えると、親の協力も部活動であれば得やすい、保護者に声掛けがしやすいと思います。親にも参加して見ていただくことで、子どもが安心すると同時に親も様子がわかって安心するということがあります。私も敷島地区で小中連携をした時に、小中の吹奏楽部が二つと合唱部が連携しての合同練習を見せていただきました。参加した子どもたちにとっても好評で、合唱部の子どもたちは、楽器を吹くことの大変さがわかり、吹奏楽部の子どもたちは、声のすばらしさに改めて気づいたということでした。その時に、子どもたちを送ってきた保護者からも、次はいつかと声

がかかるほど好評でしたので、部活動という視点からの小中連携ということをもっといろいろな部活動に広げていくといくことも一つの方法かと思います。

部活動も指導者不足とか、外部講師とかという話もありますが、そういうところも小中連携することによって、一人の講師に小中両方を見てもらえるという利点もあると思うので、部活動という観点からの小中連携も広がっていくといいと思います。

市長 長田委員が言うのは、合唱と楽器を奏でる子どもたちが一緒に活動したということですね。

委員 一緒に練習して、最後に吹奏楽部の演奏にあわせて合唱部の子どもたちが歌を歌い、それもとても好評でした。

教育長 先日も小中学校の音楽祭がありましたが、小学生と中学生がお互いの発表を聞き、立ち見が出るほど盛況で、素晴らしいものでした。

委員 先日、保育園の発表会もあり、園児が頑張っていました。小中の音楽会も、非常に大変ですけどいいことだと思つづく感じました。子どもたちが日頃の練習の成果を楽しく発揮している、その中で自己の充実感、達成感を感じているだろうし、私たちも見ていてとても楽しくまた元気をもらいました。そういうエネルギーをもらうというのは、「甲斐市で育って、甲斐市を育てている」と実感を持ちました。

委員 「連携」と「一貫」というところで、メリットとデメリットというのは、どうしても裏腹な部分があるのではないかと思います。例えば「中1ギャップ」の解消にはなるけれども、小学校において5・6年生で小学生としてリーダーシップを発揮してきた子どもたちの存在は薄くなるということがあります。6年、3年の教育課程を、9年間の教育課程という一つの流れの中で子どもたちが学習できるというメリットは大きいと思います。

例えば、小学校英語はいよいよ本格実施されますが、英語の授業について、これまでの活動はどちらかという聞きたり話したりすることが主で、書いたりすることは中学校に行ってからという線引きがありました。今度、教科になって小学校でも書くということが入ってきます。そ

うなると、小学校と中学校の連携がしっかりしていないと、どこまで教えるかということや、中学校ではどこまで教えてきてもらっているのかということを知った上で取り組むという連携が、大事な時期に来ていると思います。

小中一貫を実践している八田中学校の元校長先生とお話をする機会がありました。まず9年間の教育課程を作ることが大前提で、そのために、3年間かかったと言っていました。小学校の中で、中学校を見据えた教育課程を作って、中学校の教育課程と合わせてそれを9年間のものにしてベースを作り、それを全職員に諮って徹底をしましたが、徹底に至るまでに3年かかったということです。

甲斐市のように一つの中学校に対して二つの小学校という場合は、まず一段階として小学校同士で教育課程の統一をしっかりと固めて、その次に小中で9年間のものにしていくということになると、もう少し時間がかかるでしょうというお話でした。

甲斐市も一貫ということになると施設が離れていますから、八田と同様に分離型ということになります。そうすると移動が一番のネックになるということでした。教員も含めて、小学生が中学校の部活動を見学に行ったり、逆に中学生が小学校の授業参観に来るといったことがあったり、そういう交流を何回か重ねていくうちに、一貫校の形が見えてきたという話でしたので、時間はかかると思いました。

もう一つは、「連携」から「一貫」に行くときには、保護者にどのように理解をしてもらおうかということがポイントということです。中学校の先生が小学校で行う出前授業を、授業参観として保護者に何回かいろいろな教科をみてもらいながら、目で見て理解してもらおうという努力をしたということです。

結論的には、しっかりした「連携」を作っていきながら段階的に「一貫」へということが大事かと思いました。

市長

「一貫」になると、時間がかかるということですね。委員さんの意見からは「連携」がいいということですね。

小中学校のICTについて問題となっています。市長会では、国で費

用を負担してくれるのかという要望を投げかけましたが、回答は出ていないようです。

事務局

2月中旬くらいに、交付要綱が出るという話です。

市長

私も個人的には、「連携」「一貫」については、小学校を6年、中学校を3年としていけばいいと考えます。英語についても教える先生が大変だと思います。ICTについても、一人一台のパソコンということですが、実践をするには地方は大変です。小学校では、例えば漢字を1200文字覚えるというように6年間でここまで育つ、そして段階的に中学校へ行くということでもいいと思うので、「連携」を行いながら、小中学生と一緒に野球をしたり、サッカーをしたりと、折に触れて交流があればいいと思います。小学校で6年生までの勉強をして、次の中学校へ行くということでもいいのではないかと考えます。

委員

元が「中1ギャップ」という不登校という問題が出てきたということで、少子化で子どもに関わる人たちが少なくなってきたということ、小中連携ということが出てきました。

教育長

以前は、家の近所の子どもたちが、年齢が違っても遊んだりして交流があり、中学校へ行っても知っている先輩がいたのですが、今はそれもなく、違う小学校の子どもも集まってくるので「中1ギャップ」ということが生じてきます。双葉地区では、中学生が小学生に陸上やボール投げなどを指導したり、敷島地区では、吹奏楽と合唱の合同練習をしたりして交流をしています。また、教員も交流することによって、いろいろな場面で話がスムーズに進むという利点があります。甲斐市がこれまでこのような取組をしてきた結果、子どもたちに落ち着きがあり、授業に対する態度も非常によくなり、不登校も減ってきて、さらに学力も上がってきています。甲斐市の取組がいい方向に向かっていると思っています。

委員

「連携」をしている方が、学力が上がるという結果は出ています。

委員

もちろん、小学校の6年間でしっかり学習をさせ、成長させて中学校へ送るというのは基本だと思います。そこに今は「連携」ということが出てきています。

市長 中学校の先生が小学校で出前授業をすとか、先生たちも大変だと思います。

教育長 中学校の先生が小学校のプログラミングの発表会の時に参観に来ていました。

事務局 小学校の子どもたちの様子を見たり、小学校の先生はどのように授業で指導しているのかを中学校の教育に活かしたいということで来ていたと思います。

中学校になると専科教員制になり、すべての教科を担当が教える小学校とは違うので、「中1ギャップ」の一つの特色として、小学校の学級担任制から中学校の専科教員制になった時に、そこに子どもがうまく馴染めないということがあります。小学校6年生の授業に中学校の先生が行って、中学校ではこんなことをするというのを伝える中で、中学校の授業に対するイメージを持ってもらい少しでも中学校入学のハードルを下げるという意味で、限られた回数で出前授業を行っています。

委員 小学校でも、高学年になったら、専門的な指導ができる教員が、教科委員 任制をとる方向も出ています。そういう意味では、中学校から専門の先生が来て授業をすると、小学生も新鮮な感じを受けると思いますし、より専門性の高い授業が経験できると思います。

委員 小中のギャップというのは、小学校1年生は具体的なものを手にして勉強していく、中学3年生になると、具体ではなく抽象に行くということで、抽象が増えていくことになります。中学校の先生は上の方しか見ていないし、小学校の低学年の先生はどうすれば子どもがよく遊べるかということを考えています。そういうギャップが小中にあるので、それを少なくしようということで、出前授業をしたり、交流をしたりしています。

教育長 今の子どもたちは、多様で、私たちの年代は友達と一緒に遊び同じ小学校から同じ中学校に行きましたが、今は、外で遊ばない、友達がいないという子どもたちが集まってくるのでいろいろな問題が生じてきています。

事務局 今回は、甲斐市の「小中連携」の現状の報告ということです。ここで



今後の方向性を出すということではありませんので、皆さんの意見をいただいて長期的に考えていく参考にさせていただきたいと思います。

市長 他に、ご意見、ご質問ございますか。

一同 異議なし。

## (2) 文化・芸術・スポーツなどへの活動の支援について

事務局 (資料説明)

市長 県内でも手厚く補助している市があるのですね。

委員 「甲斐市小中学校体育大会等出場補助金」とあり、次の欄も「甲斐市県外スポーツ大会出場費補助金」と、「体育」「スポーツ」が前面に出ていて、文化、芸術も併せて取り組んでいるので、その文言も入った方がいいかと思います。

市長 ここで、文化、芸術も対象とするために意見をいただきたいと思います。

委員 学校では、そろばんなどで賞状をもらったということで、子どもが持ってくるので全校集会で披露することがよくあります。活躍している部分をみんなの前でほめてあげるということは大事だと思います。

今の2つの補助金の対象外の子どもも把握出来るシステムにして、補助できればと思います。

教育長 3の「本市小中学生の学校外スポーツ・文化活動大会等出場状況」の対象にある人たちは把握できるのでしょうか。

委員 すべての子どもに調査することができなかつたので、教員が把握している数がここにある94人ということになります。細かく調査すれば対象者はもっと多くなる可能性はあります。

委員 どの程度を対象にするのか、大会の規模とかレベルもあります。

事務局 いきなり関東大会というものもありますが、調査した条件は、県予選を経て関東大会以上のレベルの大会に県代表として出場した子どもとしました。

教育長 ここでは、小中学生の関東大会以上の出場と条件を絞って調査した結

果が94人ですが、他市では一般の人を対象としているところもあります。一般の人たちを対象にした時に、どれくらいの補助額になるかということは、まだ、把握していません。

市長

小中学生が、こういう大会に出た時に、その費用負担を家族にさせるのではなくて、行政でもいくらかは補助をしてあげないと、大人になっていく段階で、将来、文化人になったりスポーツマンになったりすることをさえぎってしまうのではないかという私の思いがあります。

中学生が県大会で優勝して全国大会へ行くことになったのですが、今の規定に当てはまらずに補助できないということがありました。費用負担が大きくて、子どもたちは全国大会に出場できないということはよくありません。この話を聞いて、スポーツ、芸術に対する子どもたちの意欲を削いでしまうことになり、アスリートや文学者を育てるのに、疎外になってしまうと私は感じました。

事務局

市長は、このことについては、創甲斐教育の中で、スポーツでのアスリートづくりなど、子どもたちの芽を伸ばすために、できれば多くの場を見せてあげたいので、人材育成のためには、補助制度を見直した方がいいのではないかということを書いていました。

市長

他市を見てみると、手厚いところもあるので、そういうところを参考にして見直しをするといいと思います。

委員

縛りがあればいいですが、何でもいいというわけにはいかないと思います。

市長

個人でも、補助できるというようにしていかないといけないと思います。自費では行けない小中学生を助けてあげないと、家庭ではやりきれないと思います。

委員

子育て支援ということにもなりますね。

教育長

第2次創甲斐教育の中にも「子どもたちを育てる」「スポーツの育成」「文化の育成」が明記されています。

市長

まずは小中学生を対象にした補助を考えていただきたいと思います。

事務局

検討するにあたっては、小中一貫にしてもアスリートづくりにしても創甲斐教育の施策になると思います。市として子どもたちを育てるとい

うことを目的に補助制度を設けるとか、市として教育を強化するために小中一貫をするという、しっかりした方針に基づいて整理した方がいいと思います。

市 長 他に、ご意見、ご質問ございますか。

一 同 異議なし。

### (3) その他

市 長 皆さんから何かありますか。

一 同 なし

市 長 以上で議事を終わります。

### ○その他

事務局 皆様からご意見、ご質問はございますか。よろしいですか。

一 同 なし。

### ○閉 会

事務局 閉会を宣する。

閉会時間 午後5時15分